

研究代表者 所属・職：健康科学部・助教

氏 名：坂口 大史

研究課題名：半田市赤レンガ建物と周辺地域を含めた地域活性化まちづくりに関する研究

研究の目的

「半田赤レンガ建物（以下、赤レンガ建物）」とその周辺敷地を対象とした、中心市街地の活性化に関する研究である。赤レンガ建物は、中心地に位置する広大な面積を有する施設であり、2014年～2015年にかけて改修が行われて以来、半田市における重要な観光拠点の一つとして機能している。その一方で、休日は多くの来場者が訪れる一方で、平日は閑散としており、2階部分は活用されていないなど、未整備の課題も多く存在することが指摘される。

赤レンガ建物は、建物がもつ歴史も考慮すると、半田市における新たな観光のシンボルとなり、半田市の活性化に資する可能性をもつ建物である。また、赤レンガ建物は半田市の中心に位置し、住吉駅からのアクセスも良いことに加えて、水や緑などの自然を有する住吉神社が隣接しており、高校、保健所、警察署など都市における主要施設も位置していることから、赤レンガ建物の敷地とその周辺地域を一体的に計画していくことで、その魅力をより高めることができると考えられる。そこで、本研究では、将来的に半田市をより活性化させていくため、「赤レンガ建物」とその敷地の有効活用に関する研究と赤レンガ建物周辺地区を含めた地域活性化案についての提案を行うことを目的とする。

プロジェクト目標の達成状況・成果内容

プロジェクト目標の達成状況・成果内容として以下の3つを報告する

①赤レンガ建物に関するハードとソフト両視点からの具体的な提案

本研究において、赤レンガ建物の施設空間の分析、施設利用者の属性分析を行った。それら

の分析結果に基づいて、赤レンガ建物の施設の活用や周辺敷地に新たに設置する建物の可能性、敷地周辺の既存施設との連携という視点から建築的な提案を行った。これらに加えて、赤レンガ建物の利用促進と更なる活性化を目指した仕組みづくりとして、ソフト面からの提案を行った。

②赤レンガ建物と周辺施設との回遊性の仕組みづくり

赤レンガ建物に対する施設改修提案に加えて隣接している住吉神社からの人を引き込む仕組みを提案した。具体的には、住吉神社と赤レンガ建物の敷地の高低差を利用して、緩やかなスロープを設置して、住吉神社から赤レンガ建物の敷地へ自然と誘引される動線を計画し、その先には市民が日常的に利用できる機能を備えた建築物と緑溢れる憩いの場を創出することを提案した。

③半田市の他の観光施設との連動

半田市には、赤レンガ建物以外にも、新美南吉記念館、ミツカンミュージアムなどの観光施設が存在する。それらの施設と連動することで、日常的な市民の利用のみならず、休日の観光客が半田市の観光施設を訪問し、半田市でしか味わうことのできない空間体験を可能とする機能として「赤レンガホテル」を提案した。これは、欧米でもみられる、歴史的な建造物の一部又は全部を改修して、実際に宿泊することを可能にした事例から着想を得た半田市にしかない空間を実現する提案である。

上記の成果について、2017年8月15日赤レンガ建物にて市民向け発表会を開催し、報告を行った。

優れた成果があがった点

本研究における提案は、赤レンガ建物の将来構想と利活用を合わせて考えるものであり、いわゆる「特効薬」の性質は必ずしも備えていない。その一方で、本研究の成果を市民研究会で発表し、提案を展覧会という形で市民に向けて発信し、赤レンガ建物の利活用について新聞取材を受けるなど、学外に向けて提案を広く共有することで、多くの市民の関心を集めることができた。また、今回の研究を通じて、学生を中心とした若い世代が赤レンガ建物に関心をもち、赤煉瓦倶楽部が企画するイベントなどに参加するようになったことで多世代交流が促進する機運が生まれた。こういった草の根的な活動も、地域活性化に必要な

ものであり、それらは本研究の副次的な効果として挙げられる。

研究期間終了後の今後の展望

今後の展望として、「日常的な市民の活用を促す方策」を検討する必要性を感じた。休日などには、「マルシェ」をはじめとしたイベントが開催され、賑わいをみせる一方で、平日は閑散している。観光客や休日の利用だけでなく、平日にも市民が気軽に足を運ぶことのできる仕組みづくりが必要である。このような点から、本研究で提案した住吉神社との連動やコミュニティ機能を拡充することは、現在の赤レンガ建物が抱える課題に一定の解答を示すものと考えられる。